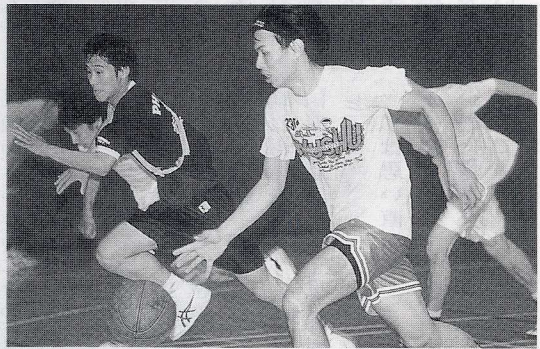
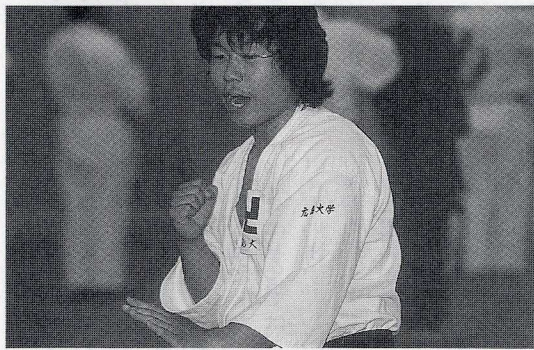


座談会シリーズ第三弾!

君はサークル活動をどう捉えるか
— 充実した大学生活を求めて —



● 座談会開催日時
6月10日(月)16時~18時30分
● 座談会開催場所
法・経済学部中会議室
● 写真協力
写真部 滝本勇紀



キャンパスライフに課外活動はかせない。課外活動に参加しないで学生生活を終えることは、その価値のほとんどを失うとまで極限する人がいるくらいである。

この課外活動を行う団体がいわゆるサークルであり、その多くが、大学あるいは学部で「認知」されている。このサークルの多さは、日本の大学の一つの特徴かもしれない。本学でも一五〇を超えるサークルが学生委員会に届け出ていて、学部届け出ているものを合わせれば二〇〇団体以上となるであろう。

確かに、課外活動は自らが「主体」としてかわる行為であるから、時代の変化でかわり方も変わる。一昨年の調査によれば、一年生の六七%が何らかのサークルに加入しているという。これに対応して、学生課には二係が設置され、体育館、グラウンド、サークル棟などの施設・設備が設けられている。しかし、学生生活におけるサークル活動の意義については、大学としての見解はもとより、その論議も深まっていない。今回の座談会では、まず参加各サークルの現状を語っていただき、そのなかで活動の意義にも触れていただいた。従って読者には、サークル活動の一端を知っていただけたらと思うが、その意義について理解を深めていただけたらと思えない。

しかし、アドバイザーの先生方から経験者としての話もいただけたので、サークル活動で何が得られるかが少しはお分かりいただけるところ。これを機に、学生生活の充実とサークル活動のかかわりについて論議が深まり、より良いキャンパスライフの構築がなされることを期待する。

岡本敏一 司会をさせていただきまず広報委員の岡本です。ラグビー部の部長をやっております関係で私に司会をやれということになったわけですが、大学生活の中でサークル活動というのはどういう意義があるかについて、皆さん方にそのいろいろな思いをざっくりばらんに語っていただこうということでの企画をしました。

たくさんサークルに参加していただきたかったんですが、準備の時間がなく、スポーツ系の五サークルと文系の五サークルを選ばせていただきました。残念ながら、美術部、将棋部、ジャズ研究会は都合がつかないということでお席していただけませんでした。本日出席のサークルは、どちらかと言うと体育系寄りとなっていました。あまりそういうことを気にせず、普段思っていることを話していただきたいと思っています。

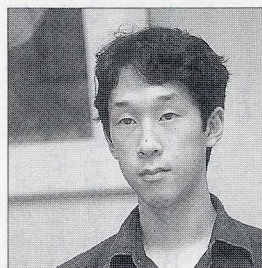
それでは出席者の自己紹介をお願いします。
松下龍文 バスケケットボール部の松下です。工学部機械系の三年です。僕は中学校からバスケケットボールを始めたんですが、体育会クラブで一所懸命やりたい人と同好会で遊び半分です。やる人との違いはどこにあるのか。僕はよくわからないので、そこら辺を話してきます。
森本智子 ワンダーフォーゲル部の森本智子です。教育学部三年です。ワンゲルは体育会に属しているんですが、体を動かすことが半分と計画を立てています。

現在、一年生の指導と主務を担当しています。
伊藤敦 法学部法学科三年の伊藤敦。ヨット部です。ヨットの方は大学に入ってから始めました。ほとんど全員が初めてヨットをやる人間ばかりです。そうしたなかでどこまで強くなれるかを競うには、勝つこと。ここ数年、中国地区では毎年優勝し、全日本に向かって

サークル活動へのそれぞれの関わり

この五サークルを選ばせていただきました。残念ながら、美術部、将棋部、ジャズ研究会は都合がつかないということでお席していただけませんでした。本日出席のサークルは、どちらかと言うと体育系寄りとなっていました。あまりそういうことを気にせず、普段思っていることを話していただきたいと思っています。

それでは出席者の自己紹介をお願いします。
松下龍文 バスケケットボール部の松下です。工学部機械系の三年です。僕は中学校からバスケケットボールを始めたんですが、体育会クラブで一所懸命やりたい人と同好会で遊び半分です。やる人との違いはどこにあるのか。僕はよくわからないので、そこら辺を話してきます。
森本智子 ワンダーフォーゲル部の森本智子です。教育学部三年です。ワンゲルは体育会に属しているんですが、体を動かすことが半分と計画を立てています。



隅井良平 (すみい・りょうへい)
理学部二年
(所属クラブ) 生物(いきもの)会
(進路) 研究職
(今一番興味のあること) 山登り
(一言) 海に行きたい、山に行きたい。

ことが半分です。広島地区の大学ワンゲルとの交流を持っていますし、中国の大学とも互いに交流を持っています。
橋本知恵 合唱団の橋本知恵です。理学部生物科学科三年です。合唱団は定期演奏会を一年の活動の総決算としており、各人一所懸命合唱に取り組んでいます。

私は大学から合唱を始めたんですが、大学で始める人と経験者と半々ぐらいです。今日の座談会で、習慣的になりがちな自分とサークルとの関わりを見直せたらいいなと思っています。
喜安浩平 学校教育学部中学校教員養成課程で美術専攻四年の喜安浩平です。今年の三月までこの劇団の団長を務めていたんですが、四年生になって専門の美術に時間を割かれることが多くなり、実質上引退というかたちをとっています。
先輩に誘われるまま演劇を始めたんですが、この劇団の構成員のほとんどが初心者です。もともと学校教育学部が東雲にあった頃に旗揚げされた劇団です。地道に、年に三回こつこつと練習を重ねています。
隅井良平 生物(いきもの)会の隅井といます。理学部の物理学科です。

生物(いきもの)会の活動は、とにかく外へ出て生き物を見ようというサークルです。その活動範囲は、「大学構内のこの場所」に毎年この花が咲くからこの時期に行こう」とか「広島県内のこの山にはこの時期にこのような花が咲く」とか「このような鳥が出てくるから見に行こう」とか。特別なものでは、九州の九重山に「ミヤマキリシマがもう山一面に咲くのでそれを見に行こう」とか、そのようなちよつと軽めの山登りが多いです。
岡本 部員はどのくらい。
隅井 部員という限定がないんです。流動的なんです。大体主に活動しているのは二年生以上なので、二年から考えた四十人くらい。
岡本 そういう流動的な部員を統括していく組織というのは何かあるんですか。
隅井 役員会があります。二年、三年が中心です。
自分史としてのサークル活動
岡本 部長や顧問としてお世話していただいている先生方にもアドバイザーとして参加していただきました。
先生方にもクラブとの関わりなども含めて自己紹介をお願いしたいと思います。
柳原英児 部長というかたちでお世話をさせてもらっています。さつき渡辺君が言ったように、全国大会に出るチャンスが多いので、そのときには見に行っている。それもコンスタントに行っているという状況ではありません。本当に部長とは名ばかりで、なかなか部

活動について突っ込んだかたちでの話し合いというところまで、残念ながらいつておりません。

自身は中学校からサッカーを始めまして、高校、大学とやってまいりました。ただ、学校教育学部で体育の教員をしておりまして、サッカーが自分の専門と言いますか、学生に自分の持っているものを教えているということである意味では専門ということになるので、そのあたりから今日の座談会の雰囲気は少しも貢献できるような話ができればいいのかというふうに思っています。

静間清 少林寺拳法部の部長を四年ほど前からやっております。所属は工学部の共通講座です。

少林寺拳法部との関わりですが、私自身は五代の頃の幹部をやりました。大学を卒業してその後は続けていなくなりましたが、ときどき学内で練習風景を見ると懐かしいなという気分で見えていたんです。四年ほど前に前部長が定

隣の磯部君が三十一代ですが、私自身は五代の頃の幹部をやりました。大学を卒業してその後は続けていなくなりましたが、ときどき学内で練習風景を見ると懐かしいなという気分で見えていたんです。四年ほど前に前部長が定



森岡 敬史 (もりおか・たかし)
経済学部教授
昭和五十一年三月 広島大学大学院経済学研究科
（指導クラブ）ワンダーフォーゲル部
（一言）四年間を有意義なものに
【専門】労働経済学（資本主義の発展と労働問題）

年退官されて、そのあとを引き受けました。昔やっていたということもあって、最近は一週一回ぐらいは学生と一緒に汗を流すということもやっております。

森岡敬史 ワンダーフォーゲルの森岡と申します。所属は経済学部です。副部長をしております。

昭和四十年に静間先生と同じように広島大学に入学し、静間先生は紛争当時を過ごされたということですが、私の場合はあとの紛争が始まるのは卒業してちょうど一年あとからということ、石を投げなくて済んだんです。

今学生諸君はどういう活動をしているのかというと、実はあまりよく知らないんです。ただ、ワンダーフォーゲル部が誇れるものと言え、それは山小屋です。

昭和四十三年、もう三十年ぐらい前です。恐ろしい漢のふもとに、当時でもかなりのお金を出し合っただけでなく、くっただけですが、誇れるものというのは、その山小屋を中心としたOBの連帯です。「山毛樺の木」会というOBの集まりですが、今五〇名ぐらいのOBがおります。その住所録の補足率も七割から八割ぐらいで、OBの結束も

非常に強いものがあります。もちろん、今の現役とわれわれOBも、この山小屋を通じて非常に深い接触を持っております。

岡本 それでは文系から、合唱団のお世話をいただいております渡部先生、お願いします。

渡部三雄 合唱団の顧問をしております総合科学部の渡部です。合唱団の顧問になりましたのは二十年近くも前で、いつからだったか自分でも覚えていません。練習の現場にはあまり行かなかったんですが、先ほど橋本さんから話があった一年総仕上げのイベントである合唱団の定期演奏会には、公務で行けない場合を除きましては必ず行くようにしております。

私自身は合唱の専門家ではなかったんですが、十数年間合唱団のお世話をさせていただいているあいだに、合唱もそれなりにわかってきたつもりです。自分自身がやる音楽と言え、これは安藤委員長がご存じのとおりカラオケ程度でして、合唱ということはやっております。どういふことに期待して今日の座談会に参加させていただいたかと言いま

すと、統合移転があつて、特に移転の過渡期には合唱団も二つのキャンパスに分かれていて、練習をどうするかということで大変苦労した。幸い昨年統合移転完了ということ、このキャンパスに医学部、歯学部を除いて全学部が集まった。各サークルとも新時代のスタートを切ったと言えるんでしょ

うが、そういうなかで、これからの新キャンパスでのサークル活動について、学生特にサークルの中心になって活躍している皆さんがどんなふう考えているかなというところ。

それから、教育研究ということが大学のもちろん目的でしょうけれど、一方サークル活動というものも学生生活にとって非常に重要だ。そういうサークル活動をどう位置づけているのかということについても、学生の皆さんに直にお話聞けるいい機会かなと思つて参加させていただいたような次第です。

安藤正昭 広報委員長という大役を仰せつかっております安藤と申します。私はソフトテニス部出身で、静間先生が入学されたときには私が確かな卒業したと思っております。四十二年卒です。

大学ではテニスをずっとやっておりまして、中学校のときからやっております。腕は大したことはありません。忙しくて学生の面倒はほとんどみておりません。

けれども私自身は、サークルというものに対してかなりの思い入れがありまして、いつも言っているんですが、授業では習えないことつまり授業ではどうしても教えることのできないものがサークルにはある。

つまり一つの集団の中で、もちろん喧嘩もありましようが、そこで何かもめごとがあつたときにそのもめごとをどういふふうで処理していくか。そういうところが非常に勉強になると思っております。だから私、今でも総合科

サークルの活動目標と資金

学部でいじめられておりますがへたれておりません。

岡本 ありがとうございます。

私も自己紹介させていただきます。私自身高校時代からラグビーをやっております。広大の出身ではありません。

もう少しそれぞれの活動の内容を紹介していただきたいと思ひます。一つはサークル活動の実態。一日あるいは一週間、一年というようなサイクルでどのような目標を持ってやっているのか。例えばサッカー部からは天皇杯あるいは全国大会というようなこともありましたが、合唱団の方からは定期演奏会というようなことがありましたが、そういう目標をもう少しお話しいただきたい。さらに、練習の場、公演、公開の場などがどこなのか。学内か学外かを話していただきたい。特に学内の場合どのような施設、設備その他について不満があるのか、この際ぜひアピールしていただきたいと思ひます。

そして部費といわれる資金面です。どのぐらいの部費を払い、足りない分をどういふかたちで得ているのか。その辺を一通りお話いただけたらと思ひます。

グラウンドに照明を

渡辺 サッカー部は幹部交代をするときに、まず何を目標にするかというところを三年生全員が集まって話し合うわ

が、昭和五十七年からラグビー部の部長をやっております。

数年前、移転してきた頃から、部の運営がうまくいかなかったり、部員の運営に関わり、練習は週二、三回、試合はほとんどみています。

練習場所は南グラウンドが主で、西グラウンドも使ったり、三永の研修センターで練習をするときもあります。南グラウンドの隣に生物生産学部の実験圃場があり、牛か鶏がよくわらないんですが、電氣をつけたら生活のリズムが狂うということに照明をつけてはいけないということになっていて、僕は聞いたんです。そのことで今の時期では二時間の練習時間が、ひどいときには一時間もできない毎日が続きます。逆に、短時間で集中できるということでもあるんですが、ぜひ照明をつけてもらいたい。

部費については、皆さん驚かれるかもしれませんが、一年間に一人三万円払っています。と言うのは対外試合が多くて、西条に移転したということもあるんですが、移動はすべて車で、全国大会とかは車では行きませんが、県内である試合はほとんど遠征とかも車で行っています。その交通費という

のを個人で賄うのではなくて、その三万円の中から運転手に分けるというふうにしています。合宿は大体春休みに二回と夏休みに二回です。でもそれに加えて遠征合宿みたいなものがあるので、春休み三回、夏休み三回になります。



渡辺 智哉 (わたなべ・ともや)
教育学部四年
（所属クラブ）サッカー部
（今一番興味のあること）
ワールドカップ二〇〇二年開催についての問題
（一言）他のクラブの問題。自分には分からない問題を聞くことができた。

に影響がある」ということを大声で言われた先生が過去にいらつしやったんですが、実際には何の影響もありません。現在そこを使つておられる先生方すべてに私が聞いて歩いて、それにはまったく影響がないということも言つてくださっています。このことは学生部には伝えてあります。ですからその話はどういふことで今でもまだ流れているのか。四、五年前までならわかるんですが。

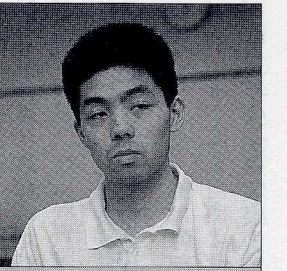
あそここの照明ができない最大の理由は、最初にその大声で言う先生があの用地を開いたときに関与しておられたものだから、電氣の配管ができなかつたというのが最大の理由のようです。しかしアーチェリーの練習場の方には引いているんです。できないことはないと思ひます。

ラグビー部長の立場から、サッカー部と同じようにぜひあそこを照明をつけてもらいませんかと冬場が困りますので、サッカー部その他と共同してぜひ大学当局に働きかけていきたいと思ひます。

岡本 このほかに、先ほど照明の話がありました。施設面でぜひこういふことだけはあるの申しておきたいとか、何かそういうことがありましたらこの際出していただけますか。

森岡 これはワンゲルから離れた話ですが、法学部、経済学部には夜間学部がありますね。今校舎などの建て替えの時期ということもあるんでしようが施設面で非常に苦労して、学生部の方もいろいろ動いてくださっているようなんですが、今回の特集の中に二部サークル連合のことがほとんど書かれていないので、サークルということも考慮するのであれば、二サ連のことも考慮していただければと思ひます。

森本 体育会でボックスを使わせていただいているんですが、使用時間についてもう少し遅くまで使わせていただきたいと思います。



松下龍文 (まつした・たつふみ) 工学部三年 (進路) システム・エンジニア (今一番興味のあること) 空き時間のつくり方と睡眠のバランス (一言) たくさんの仲間をつくる。

く知らないんですが、制限時間があるんですか。

森本 九時か九時半ぐらいに戸締りをされる方が回ってこられるので、出なければいけないので、もう少し使えるといいなとクラブで話しているんです。

岡本 ほかの教室とかは使えないんですか。

森本 教室とかは遅くまではとっていないんですが、八時半ぐらいまでは使わせてもらうこともあるんですが遅くまでは利用していないんです。

橋本 音協加盟の団体みんな使えるボックスがあるんですが、この鍵を借り出すのにもわざわざ大学会館まで行かなくてはならないんです。できればあそここの鍵は体育会系で貸し出してくれるようになれば便利がいんですが。

岡本 なるほど。

安藤 その鍵は誰が管理しているんですか。

橋本 守衛さん。昼間は学生部の方が。 護身練級の技 磯部 われわれの練習は一日に二時間で、週に四回の練習。これに加えて月曜日と土曜日に通常練習のあとに二時間追加で自由練習を行っています。

の自由練習は、参加や内容は自由です。少林拳法それ自体の目標としては、三徳と言いまして、「護身錬級」、「健康増進」、「精神修養」と三つを目的としており、サークルとしてもそれを目指してやっております。

数か月に一度、昇級試験、昇段試験があるので、それに向けて日々いろいろな技や突き、蹴りを練習しているわけですね。

自分たちが参加している大会には二つありまして、まず春に中四国大会、秋に西中国大会があります。あと夏に本山合宿があって、参加できる部員全員が香川の総本山で合宿を一週間行います。

部費は月に二千円です。ここから監督さんへの謝礼とかさまざまな費用を出すわけですが、行事での交通費や参加費などは、そのときどきに集めるようになっていきます。

静間 多少補足しますと、先ほどの本山との関係ですが、少林拳法というのは財団法人に一本化されていて、その所属という格好になっています。その規定として、各大学には監督を置くことが義務づけられておりまして、外部から監督を迎えるという格好に

そのためにOBの方たちから援助をしてもらわないとやっていけないという部です。OBとの結びつきやOB同士の結束は、ほかの部に比べ強いのではないかと思います。

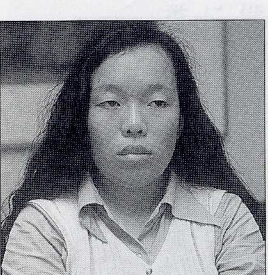
本拠地はもっぱら宇品の艇庫ですが、最近では広島市内にある観音マリーナが整備されつつあるので、ヨット部もそちらの方へ拠点を移しつつあり、練習時間が長引いたりするなど面倒なことが起きています。

部費は月に千五百円程度。遠征費はそのたびに払うことになっています。先ほども言いましたとおり、冬場は「モーツァルト」というお菓子屋さんの工場で作らせてもらっております。二か月程度です。

物足りない練習時間

松下 バスケケットボール部では、春と秋に中国大会、大阪で西日本大会、十一月に五大学、十二月に中国四国九州の三地区大会、ほかに島根大学や立命館との定期戦も行ってあります。

部費は特にありません。遠征などのときはそのたびに集めるようにしています。大会などの参加費は、OBからの援助によって賄っています。毎年夏



橋本知恵 (はしもと・ちえ) 理学部三年 (所属クラブ名) 合唱団 (進路) 就職できるならどこでも。(今一番興味のあること) 今年の西条の夏の最高気温。(一言) 喉を痛めているので、お菓子とは言わないまでもお茶くらいは出るのでは...と期待してしまいました。残念。

なっています。

それと練習の場所の件ですが、昔話をしますと、われわれが現役のころは道場がありませんで、グラウンドの上でやっておりました。東千田の体育館ができるときにぜひ入りたいたいののがわれわれの頃の目標でして、運よく入ることができたんです。

われわれの頃は人数が多くて、一階を何区画かに区切るなどかなり窮屈な面もあったんですが、今西体育館には剣道場、柔道場と大変素晴らしい施設ができております。

その面では学生は非常に恵まれていると言えるんですが、新たな問題ができました。震地区が向こうにあるというところで、医学部、歯学部生が、今度は逆に西条に来なければなりません。電キヤンパスにも柔道場があり、そこが少しは使えるらしいんですが、練習場が十分ないというふうな逆転現象が起きております。

全日本インターで六位入賞を

伊藤 ヨット部の目標は毎年同じなんです。幹部が十一月に交代しまして、そのあと部員全員で理論合宿というのをやり、今後の方針を決めるわけなんです。



静間清 (しずま・きよし) 工学部助教 昭和五十二年三月 広島大学 院理学研究科博士課程単位修得退学 理学博士 (指導クラブ) 少林拳法部 (一言) 多くの人が参加して多くの仲間をつくること。できれば、人生は楽しくなる。 [専門] 原子核物理学 (放射線計測に関する研究)

全日本インターで六位以内に入賞したいという目標を毎年立て、そのためには中国インカレという全日の予選で優勝しないと出場できないので、それがとりあえずの絶対目標で、それを指しつつ段階を経てやっていたいこうとしています。練習はもっぱら四年生やコーチが相談して具体的に決めて、それに従って、という感じなんです。

われわれの一週間は火、木が陸上トレーニング、土、日は宇品で合宿練習。海の上には朝九時半ぐらいに出艇して、今の時期だと日が長いので、六時半ぐらいまで練習することもあります。これは当然季節によって違ってきまして、日が暮れるのが早いと五時とか四時半に着艇したりします。

夏休みには練習をまとめてやることになり、夏休み中ほとんど合宿になります。秋には秋合宿を同じようにやります。冬場は寒いものですから練習はしないんですが、代わりに部員全員でバイトをやっています。お金がかかるものですから、部活の代わりにバイトをしています。

ヨット部は海でやるからサポートする人たちが非常にたくさん必要で、ヨット自体の修理にもお金がかかります。

森本 交通費や個人装備なども自分でちで払って、 TENT やみんなで使うものは部費から払っているんですが、体育会からの援助ももらっています。

合宿中に何か事故などがあつた場合に、大きな事故だと捜索をしていたいたりしなければいけなくなるので、そのときのために何年も前から積み立てており、そのお金がかなりたまったようなんです。

岡本 生物(いきもの) 会の方はどうですか。まず一週間のうちあるいは一年間の活動について。

月例ハイクと四季のキャンプ

隅井 月一回部会があつて、あと月例ハイク、近くにある山に登ろうというのが必ずあつて、それに必ず出なければいけなくて、あと年四回、新入生歓迎キャンプと夏キャンプと秋キャンプと春キャンプ、この四つだけが出なければいけないもので、あとは全然締めつけがないので、自分たちが活動したいときに活動するというかたちです。ですから、授業の合間なんかに大学内で珍しいものが見られると言ったらみんな行つて見るといふかたちで、それ以外に行かなければいけないというのはありません。

連絡はボックスに紙を貼って、この日にここへ行こうとかいうのを出しておいて、それで参加する人がボックスに集まって行くというかたちです。部費は月に三百円です。これは学祭なんかで店出しをするときとか TENT なんかの装備を買うときに使います。

定期演奏会の成功と練習場の確保

橋本 合唱団の年間目標は、結局定期演奏会の成功ということや合唱芸術の追求ということになるんですが、確かに去年の目標は「いい声、いい顔、いい心」そういう年度目標が立っていたと思います。

現在の練習は週二日、火曜、木曜に二時間、それと土曜日に三時間。年に何度か合宿を行つて、曲を煮詰めたりにしています。

練習場所については、私たちはサークル棟にいくつかある多目的室とか会議室、音楽練習室、ときどき総合科学部の教室を使わせていただいで練習しているんですが、音協のサークルがいくつかある上に一つのサークルがいくつもある部屋を使うことが結構あつて、圧倒的に部屋が足りません。全体の練習のときは音楽練習室が使えるんですが、ソプラノとかテナリとかのパート別に分かれて練習するときはいずれも部屋が取れなくて、ブラスバンド部の楽器庫や邦楽部の琴や三味線が置いてある横でやらせていただくこともあります。そういうところは人の出入りが多くて集中できませんし、自分の歌っている声もよく響かないので、本当に総合科学部の教室がいいので、もう少し部屋を使わせていただけたらと思っています。

部費に関しては、月千五百円前後で、先生の謝礼とかにあてています。また定期演奏会が行われるんですが、その場合は団員一人あたりいくらかのノルマで、広告をあちこちのお店から出し



ていただいて成り立っています。

定期演奏会の場所は、ここ何年かは広島市の東区民文化センターで行っています。西条でやりたいという意見もあるんですが、西条のホールは一年前から予約がとれなかったり、規模が大きすぎたり小さすぎたりでちょうどいいホールがありません。大学に望んでも仕様がないんですが、都合のいい場所があればいいなと思っています。

一番盛り上がる冬公演

喜安 活動そのものは、基本的に年三回の公演を打つことになっています。五月の末に新歓公演、夏休みあけに夏公演、一月頃に冬公演。

冬公演で三年生がたいてい引退するものですから一番派手で、一番盛り上がる時なんです。だから観客数も夏の倍にはねあがったりするんです。だから冬の公演に向けて少しずつお客さんを増やしていくというのが目標なんです。僕が団長だった頃には、とにかく西条で知名度を上げたいというのがあって、観客数が増えたのである程度の目標は達成できたと思っています。練習場所は、学校教育学部のある教室を借りて、月に何度かまた公演の本番前には大学会館の大集会室を借りて、本番に即した練習をしていくことになり

ます。一つの公演に二か月から三か月ぐらいの準備と練習期間があって、台本が決まったら週三回ぐらいのペースで、だんだんせつぱ話まわって最後にはほとんど毎日、というふうになるんです。部費は月千円です。

岡本 公演をやりますと、会場費のほかに大道具、小道具、衣装にもお金がかかるんじゃないかと思うんですが。

喜安 できるだけやりくりしています。が、衣装とかは台本によっても変わってくるんですが、かかるときは相当かかります。

去年は東区の戸坂小学校のPTAの依頼で一日お芝居をしてきたんですが、普段は大学の中で練習して大学生向けのちょっと小難しい芝居をやっているんですが、それが戸坂小学校に行くという事になって、わかりやすい芝居をしようということで、小道具は大道具だともうわんさかになってしまっ、大学の中で練習して大学で公演を打つから移動もめったにしないのに、うわーという感じで大変でした。

岡本 有料ではないんですか。
喜安 公演協力金とかたちで毎回四百円ほどチケットを買っていただいています。ほとんど赤字、黒字を行ったりきたりなんです。

サークル活動と安全対策

岡本 今、戸坂小学校への移動ということがありましたし、公演や試合のためにいろんな移動があると思います。サッカー部では部員の車を使うというように、字品まで毎週土曜日曜に行かなければいけないようなこともあると思うんですが、部活動、サークル活動での車の移動について次に取り上げたい。この大学での一つの問題に交通事故の問題があるものだから、車の移動でどういうことか気をつけておられるか、どんなような事件があったかというようなことを、ざっくばらんにお話いただきたいと思っています。

交通事故と安全対策

渡辺 事故はこれから起こるかもしれないんですが、まだ起こってなくてそれはいいんですが、車を使っている交通費が問題で、部費として集める三万円の中から、試合会場でマネージャーに今日は何人乗せたと車の運転手が報告したら、その分の交通費が一月で締めて渡されるんです。今から二年ぐら

い前は車割りにしていたんですが、それだとやっぱり運転する人は三、四年生が多くて、先輩から後輩に金を出せとは言いにくくて、やはり上の人の負担が大きいという問題がありました。今はそういうことはありません。

岡本 事故対策はあまり考えない。
渡辺 ないです。
岡本 少林寺は、合宿などではないかですか。

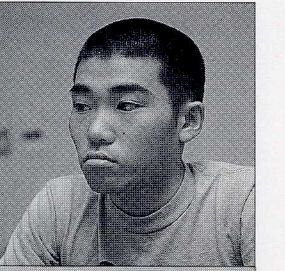
磯部 行事で必要なものを運んだりするのは使いますが、部員の移動とかは基本的に電車です。

伊藤 ヨット部はもっぱら車で移動して、部員の車に頼っている状況です。安全面については、これだけ車を使用する部でありながら、そういう一定の規定というものは残念ながら作ってなくて、やっぱり運転をする部員の判断と言いますか、そこでいかに気をつけてもらうかという個人個人にかかっているわけです。

「もし事故が起こったら」ということで話し合いもありました。「保険をかけたらどうだ」とか「もし、そういう



森本智子 (もりもと・ともこ)
教育学部三年
(所属クラブ名) ワンダーフォーゲル部
(進路) 日本語教師
(今一番興味のあること) 夏休みの過ごし方、旅行。
(一言) 緊張しました。



喜安浩平 (きやす ひろし) 学校教育学部四年 (所属サークル名) 劇団A・P・T (アプト) (進路) 教員 (今一番興味のあること) 美術・演劇 (一言) 劇団A・P・Tをよろしくお願いします。結構おもしろいですよ。

事故が起きたときにどこに責任の所在がいくのか」とかいろいろ話し合ったんですが、はっきりとした結論は未だに出ていない。

それとガソリン代ですね、西条から市内まで出るだけでも結構な負担になります。前は、車で人を運んでいける人は部費を免除、あるいは、乗せてもらったら必ず何百円かずつ払うことというふうに決めたりしました。でも不満がやはりお互いになりました。

ですから、お金の面とか安全面であるとかの問題はこっちへ移転する中で表れてきて、そのままずると実際の解決策をつくらなくて今のままできている、という感じですね。

磯部 移動のことを先ほど言いました。移動のこと、統合移転で医学部と歯学部が向こうに残ったままで、広島市内に住んでいる人もいます。そういう人たちも週に一回か二回は西条に練習にくるんです。往復は電車とバス。かなり費用的に厳しいので、これは部費から出すようになっていきます。あと広島県内の大学の主将会議や学連の会合などがあるんですが、これは広島市内の方でやっているんで、これらの交通費も部費で賄うことになります。

岡本 アドバイザーの先生方にもお尋ねしたいんですが、この交通問題、特に事故の心配というのは部を預かりますと非常に心配なんです。その辺何か特別に気にかけておられるという方いらっしゃいませんか。

柳原 学生もそれぞれ工夫してやっているというところが現状で、私もが特に工夫する余地がないような状況だと思います。と言うのは、サッカー部も中国学生リーグに入っていますと、五県を動かさなければいけないんです。その場合に、時間を考えますと、道路網が整備されていますから車が一番便利であると思います。便利な反面、交通事故が起らないという保証はないので、そこは無理をしないように言うことしかないだろうと思います。残念ながら本場に非力で、公共の交通機関を使えばいいんでしょうけれども、時間がなかったりとか効率が悪いということだろうと思います。

ITVの事故と対策

岡本 ワンゲルですと車での事故も起こることながら、部活として事故が起きるかもしれない率が高いと思うんですが、その辺で気をつけておられるという点がありますでしょうか。

森岡 現役の人たちが集まっているところに出る機会があれば、毎回それは言っております。事故だけはやめてくれと。特にワンゲルの場合は、テント生活が続くわけですが、われわれが学生のときには、たとえテントの中でも合宿中はお酒を飲まないというのが原則で

松下 県外に出るときは必ず公共の交通機関、遠距離バスとか電車だとかを利用しています。広島市内の広島工大に行くときは、時間を決めて何時何分に集合というかたちで車で移動しませんが、県内の近い距離でも事故は起こらないとは限りませんし、そこをつかれると弱い面はあります。

岡本 ワンゲルでは、山登りのときはまさか車を使うことはないですね。**森本** クラブ全体でみんなが集まって合宿をするときは、四年生に車でキャンプ場のところまで来ていただいたりすることがあるんですが、そのときは交通費を払っているんです。合宿の下見などで車を使ったときにもその都度ガソリン代を出しています。数年前から統合移転費というのを積み立てていまして、市内に残った学部の部員に関してはそれまでは交通費を出していましたが、統合移転も完了して、統合移転にかかる費用がかなり余っているんで、それをどうするか話し合っているところなんです。

岡本 生物(いきもの)会はその活動様態からいきますと、移動を意識することはないですね。瓶は持っていきまじたけれども。最近はそのようなところがあるところがある。口を酸っぱくして、酒は活動中はできるだけ控えて、特に危険なところに行つたときは控えてくれというところはあります。それと先ほどの山小屋の話ですが、恐ろしいものがあるんで、あそこにはアプローチする道が非常に狭いんです。スキー場のところから。そこに部員たちが車で入るんですが、当時、われわれは三時間ぐらいかけて歩いて入ったんですが、今はもう車で入っている。それも非常に心配です。

防犯面での安全対策

岡本 もう一つ皆さん方にお尋ねしたいことがあります。それは今キャンパス内で問題になっているのが、学外者によると思われる暴行事件と言いますか恐喝事件なんです。そして皆さん方サークル活動を終えて帰る時間が、バスケット部ですと九時半ですか、非常に遅い時間。そういう中で防犯についてどうお考えですか。

喜安 その事件があったという話を聞いてからは、できるだけ自転車の人は一緒にだとか、並走できるような場所では男性が並走してあげるとか、そういう工夫はしているようなんです。**岡本** 合唱団は女性が多いからどうでしょう。

橋本 そうですね。表立って、合唱団自体では今のところこれといって対策はとっていないんですが、一応みんな

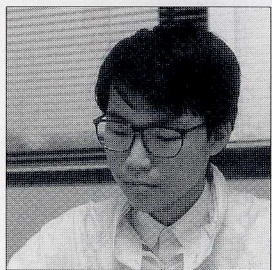
とはあまりないですね。

隅井 やっぱ公共機関が主です。どうしても日帰りたいけれど公共機関を使ったのでは帰れないというときだけ自動車を使ったりします。

岡本 どこかに行きましよう、何かを見ましようといった集まりの中で相談して、ガソリン代なんかもみんな分けて、ということですね。移動に関して心配な点はありませんか。

隅井 ただ人数制限がつくというのがまずいのではないかとあります。**岡本** なるほど。車で移動することによって人数を制限したりしたくないということ。

岡本 合唱団は、公演会が東区民会館ですと、そこへ特別何か大きなものを持つていくということはないですね。**橋本** 定期演奏会ときには小さなトラックを一台レンタルして、免許を持つ者が運転していきます。それは定期演奏会の会計からちゃんと出ています。あと、東千田の法学部二部や霞キャンパスに部員がいるんですが、そういう人が土曜練習に来るときには交通費



磯部義興 (いそべ よしき) 理学部三年 (所属クラブ) 少林寺拳法部 (進路) 大学院進学 (今一番興味のあること) 一年生の指導 (一言) 新入生の入部者の七割が初心者なので、立ち方から教える三年の責任は重大である。もともとそれが楽しいのだが。



柳原英児 (やなぎはら えいじ) 学校教育学部教授 昭和四十四年三月 東京教育大学大学院体育学研究科修士課程修了 (一言) 「スポーツは子どもを大人にし、大人を紳士にする」と言われているが、それに少しでも近づいていきたいものです。(指導クラブ) サッカー部 (専門) 運動学(ボールゲームの科学)

で呼びかけて、絶対一人では帰らないで、と言っています。

岡本 生物(いきもの)会はどうですか。生物(いきもの)会も女性はかなりいますね。

隅井 やっぱ一人では帰らないという、それぐらいです。

でもそんなに夜遅く大学構内にいることがあまりないから、それほど気にかけているわけではないです。

森本 私たちは夜遅くなることが多いので、女の子は男の子と一緒に、自転車の子は特に固まって帰るようにということは言っています。

岡本 バスケットボールは、女子バスケットボールがありますね。そういう場合には男子女子それぞれで一緒に帰るようになって。

松下 そうですね。方向が同じだと自転車はなるべく固まって帰るようには言っているんです。新入生はやっぱ自転車が多いですから。

岡本 ヨット部はいかがですか。

伊藤 土日の練習の際は、たとえ遅くなくても車で家まで送るので、そういう面では心配ないんですが、平日の練習のときは、練習がそんなに遅くならないのもあると思います。別に一

を援助しています。

合宿のときは、基本的には団員が乗れるだけのバスを借りてそれで移動していますが、途中から抜けるという人は車に乗ります。そういう場合は、合宿費とは別に交通費というのを合宿のときに集めるんですが、その交通費を免除するといったかたちをとっていたと思います。

岡本 劇団の方はどうなんですか。先ほどの公演のときは大変だったというお話でしたけれど。

喜安 基本的に車は道具とか小道具を運ぶのを使う程度で、人間の移動にはほとんど使いません。

学校教育学部がまだ東雲にあった当時は、団員の構成員の中にすでに西条に移転をすませている学部の人もいて、そういう人はほぼ毎日、授業が終わったあとに東雲まで通ってくるという状態が一年間ほど続きました。そのときは交通費は部費の中から支払うということをしていました。それが部費の中で一番大きな金額を占めることがありまして、来る方も大変だし払う方も大変だし、それは大変でした。

一緒に帰るといことはしていません。**岡本** 少林寺も女子の方はいらつしやいますね。少林寺自体が護身術の一つかもしれないんですが、それにしても初心者も多いでしょう。

磯部 これといったことは言っていないんですが、二年二年はまとめて帰っていますから、自分たちでいろいろやっているみたいなんです。ただ三年生は九時に練習が終わったあといろいろ話をして、結局九時半か四十分ぐらいにはなりますので、そこからあとは三々五々、早く帰りたい者から帰ります。これはもう各自気をつけるということになります。護身術の最大の点は防衛ですから、いくらからかわして逃げればいんですが。

岡本 サッカー部は私どものラグビー部と似ていて、マネージャーさんが四人いらつしやるようなんですが、何かエスコートしておられますか。

渡辺 冬場になるとやっぱ暗くなるし、一緒に帰る者を決めているわけではないんですが、その場その場にに応じて声をかけて、気をつけて帰るようになるとか、一緒に帰ってあげるとか、車で運んであげるとか、その辺はやっていきます。

サークルが見せる魅力

岡本 皆さんのほとんどが、授業以外の時間のかりの部分を、あるいは大半をこのサークル活動に費やしておられるわけで、その魅力や動機をお話していただきたいと思えます。そしてそういう活動を通して何が得られたのかということも話していただきたいんです。

友だちと違つ、もつちよつと近い存在に感じられる仲間

森本 私は大学に入ってワンゲルでの活動を始めたんですが、新入生のほとんどが入学前にやったことのない素人でも、一、二年生のあいだは先輩にいろんなところへ連れていってもらって、三年になったら執行部となって自分たちで合宿を組んでいく。そういうことが二年間でできるようになる。

長い合宿では、一週間以上朝からずつと一緒に過ごすことになるし、それ以外でもミーティングで二年の後半から三年になるとほぼ毎日のように顔を合わせる機会があるので、友だちとも違つてもうちよつと近い存在に感じられて、その仲間ができたというのとはとても魅力だと思つています。

岡本 そういう仲間ができる魅力というのは、合唱団とか演劇とかにもあるんじゃないかと思つてます。

喜安 もう病みつきになると言うか、二か月なり三か月なり練習を重ねて、それをお客さんの前でやるわけです。そうすると自分たちが考えて考えて絞

り出したギャグで笑つてくれるし、一所懸命やれば泣いてもくれるんです。お客さんが、アンケートにも、感動したとかおもしろかったと書いてくれる。長い期間練習したものがお客さんから返ってくるのがたまらない快感で、そういうのは一度知つてしまつたらなかなかやめられなくて、引退したやつらをちよつと集めて、また少しできる範囲で何かやろうかという動きも、今僕らの中で発生してきています。

橋本 私がこんなことを言つていいのかなと思つてますが、私は自分で歌うのは好きなんです。人が歌うのを聞いていると寝てしまふんです。定演にきてくださつていてる方は本当のところどのくらい楽しんでいるのか、と思うんですが、人が見てくれてる前で歌えると言つるのは気持ちがいいです。

岡本 その辺が魅力ですか。あと仲間づくりとかの点ではいかがですか。

橋本 合唱というのは、よく言われますが、一人では何もできないんです。だから自分が十だけ努力をしていると思つて、他人が見るとどうみても三とか四しかしてない場合もあるんです。私もやるからあんたもやつてよ、みたいなことはもう言えない。お互い個人だから言えないわけだし、そういう面では一人ではできない活動というのは不便なところもあるな、と思つてます。



伊藤 敦 (いとう・あつし)
法学部三年
(今一番興味のあること)
司馬遼太郎の小説を読破したい。
(一言) サークルは多種多様で簡単に言い表すことができないだろう。

うプロと天皇杯でぶつかったりすることでもできたわけです。それはプロとやるということではなくて、毎日積み重ねてがんばつていった結果がそういうふうなものになつていったわけですが、そういうものを味わつて、彼らはもう多分やめられないと思つてます。そこまで引きつけるものを途中で持たなくてやめてしまふ。それが一つの危機と言いますか、それを乗り越えるために、本人なり周囲がどんなことをする必要があるのかなと思つてます。

松下 僕らの場合も何人か初心者はいませんが大体が経験者で、先ほど柳原先生が言われましたように、高校時代までバスケットをやつてきて大学に入ってまでバスケットをしたとは思わな

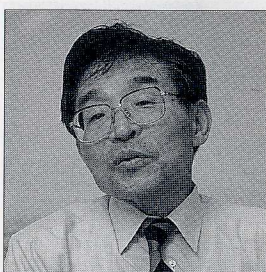
い人たちは、いわゆる同好会に入つていくんですが、やつぱり僕たち、やるならとことんやるべきだと思つて。同好会だと小さな大会とか交流試合程度しかできないので、全国につながる大会ができるところに僕は魅力を感じて入つたんです。

同好会の悪口を言うわけではないんですが、一所懸命やるところとそうでないところの仲間意識というのとは違

岡本 その点、生物(いきもの)会は今までのお話を聞いてみると、あまり仲間づくりというのでもなさそう、集う人は目標によって変わっていくような気もするんですが、どうなんでしょう。隅井 見たいものなんか結構違つていて、花が見たいとか鳥が見たいとか、そういうたふうに結構違ふんですが、外へ出て自然と交わるみたいないあたりと同じです。

岡本 自然と向き合うというところでは一緒になるとしても、あまり部員同士が横につながるというのはいないんですか。

岡本 体育系と言いますとどうしても勝負の世界に入っていくので、そういう点ではどういふ魅力があるんでしょうか。まさかその勝負がおもしろくて、ということはありませんか。



司会 岡本 敏一 (おかもと・としかず)
生物生産学部教授・広報委員
昭和四十四年三月 北海道大学大学院獣医学研究科
修士課程修了 獣医学博士
(指導クラブ) ラグビー部
[専門] 家畜解剖学

岡本 海。広島湾の海ですから結構汚かつたりするんです。臭かつたりしますからそういうすがすがしいイメージとちよつと違うかなというところがあると思つてます。

それでもなおやつぱり海の魅力というのはあつて、ワンゲルなんかもそうだと思うんですが、日常とは違ふんです。山で人間の力を超えた嵐にあつたりとかそういうふうな目に遭うのと同じように、僕らも海へ出ると、日常生活と全然違ふ世界に行つてしまふわけです。本当に海に一步出ると違ふんです。常識が通用しない。風だとか波の力がいかに強いかにいうことを思い知らされて、自分の力と向き合うと言

うか、自分個人の根源的な弱さと向き合うというふうな思い知らされる面があつて、それを克服しようと言うエネルギーを必要として、やる気が出てくるという感じがあります。

岡本 ヨット部からは、世界大会で三位になつたりアジア大会で優勝された選手が出ていますね。そういう強さは自然と向き合うところにあるんでしょうか。あるいはそのシステムがうまく

今まで経験したことのないものが得られたのでよかつた一言です。あと、ほかの部活に比べたら上下関係がまつたくと言つてほめて、別にそれがなあなになつていっているわけでもないし居心地のいい部で、その辺もよかつたな、と今振り返つてみれば思つてます。

燃え尽き症候群と危機の乗り越え
柳原 私がサッカー部の部長でありながら聞くのも変なんです。小中高とやつてきまして、途中でもう燃え尽きると言いますか、やめる選手も多い時期があつたんです。渡辺君はずつと続けて強くなつたというふうなことで、大学もチーム力がわからないまま入つたら強かつたという、いい意味で弾みがついたんでしょうけれども、どうなんでしょう、そのあたりは。

小中高と一所懸命にやると、早く見切りをつけるみたいな部分があるんですが、ほかのクラブはどうなんでしょう。やつぱりやつてほしいという気持ちがあるんです。やつていく中で本當に得られるものが多いと思つてます。特にサッカー部なんかは、種目の性格からプロとアマというのがオープン化していますので、Jリーグとい

今まで経験したことのないものが得られたのでよかつた一言です。あと、ほかの部活に比べたら上下関係がまつたくと言つてほめて、別にそれがなあなになつていっているわけでもないし居心地のいい部で、その辺もよかつたな、と今振り返つてみれば思つてます。

磯部 二人一組でお互いに技をかけた練習するんです。これを一番重要視しているのが少林寺拳法の特徴で、はじめのうちは自分のことを考えるだけで精一杯ですが、半年、一年もやつていけばどうしても、相手はどうすればどうなるのかというのを考えないとおかしい程度から先に行けなくなるわけなんです。たとえば、最近一年生が難しい技に挑戦し始めたところなんです。今はここをこうしてと自分の動きを覚えるだけで精一杯ですが、すぐに、どこをどうすれば相手はどうなるのかというのを考えるようになるわけです。

つまり相手のことを考えるということに通じるわけです。そうやって二人一組でお互いに練習し合ひ、自分が相手をしてやる時に

できているんでしょうか。
伊藤 ある面でシステムがある程度完成されているからなんです。学生時代はやはりなかなか勝てないんですが、引退してその上でまた練習して、県連とかそういうところでそういう練習のシステムを使って練習していけば、最終的には強くなれるんじゃないか。僕らのやつていることは間違つていないんだと思つてます。
岡本 厳しさということでは少林寺の方は自分に厳しいところだと思つてます。そういう厳しさを求めてというふうな学生さんときどき見るんですが、少林寺拳法の魅力、大学のサークル活動としての魅力というのはどの辺にあるとお考えですか。

は相手がかかりやすいように誘導してやり、あるいはどこが悪いのかを言っている。うまくかけられたらそのことをほめる。今度は自分がかけて、相手に同じように自分の悪いところを指摘してもらおう。そういうことを繰り返していきうちに、お互いの信頼とか仲間意識、そういう横のつながりができるわけです。

もう一つ、これも少林寺拳法の独特なところですが、他大学と結構交流が深いわけです。夏の本山合宿や春の幹部研修会などでも、宿が同じだったり練習と一緒に組んだりします。そういったことでほかの大学の拳士と仲良くなるという者は結構います。

岡本 ヨットだと、危険と背中合せですから、他との連携ということはありませんか。

サークル活動で何を得たか

柳原 田舎の高校でサッカーをやっています。随分前になるわけですが、その当時全国紙のスポーツ欄に写真入りで試合の結果が出るなんていうのは関東の大学のサッカーリーグだったわけです。それを見て、サッカーをや

伊藤 そうですね。マイナーなスポーツなので普段話ができないんです、ヨットの話を。だから仲間がいてくれるというか海の者同士の連帯感というのがあって、海の仲間とちょっと話したら、あれはこうだとか普段言えないことがわーっと話を通じるのでうれしくなっています。あとは定期戦というのを滋賀大とやっていて、そこで毎年招いたり招かれたりしているんです、そこでほかの大学のヨットの連中と一晩語り合ったり酒を飲んだりするというのもあります。

やはり自分は弱いんだということ。誰かに助けられて生きているんだみたいなことを、サッカーをやりながら感じたいような気がするんです。具体的に言えばやはりいい仲間(先輩・後輩)に出会った、平凡かもしれないがそんな気がしております。

ていればそういうふうなところに行くと頑張れば出れるんだなみたいな感じで頑張っていたんですが、結局平凡な選手生活だったし、指導者としても大したことはできなかったんですが、やってきた原動力が何かと言ったら、



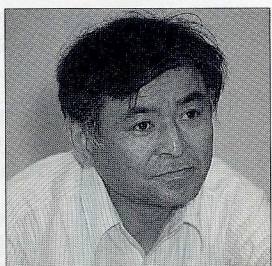
渡部 三雄 (わたべ・みつお)
総合科学部教授
昭和三十四年三月 東京大学大学院数物系研究科修士課程修了
理学博士
〔指導サークル〕合唱団
〔専門〕物質科学(液体の構造と物性の理論及びシミュレーション)

静間 自身、少林寺拳法の技そのものにそこが入って入ってやっております。その少林寺拳法というの、われわれのころはまだ試合での勝ち負けをかなり意識していましたが、そういうのはもうやめようということ、大会自身がそれぞれの技を磨くという方向になっていくわけです。

森岡 非競技系と言うんですか、試合をやる団体ではないものですか、どうしても仲間づくりという、自然の敵しさを通した仲間づくりと言うんですか、それが一番大きなものだろうというふうな気がします。

それとちょっと気になって持ってきたんですが、最近「学生の自殺を防ぐために」というリーフレットが保健管理センターから出ています、平成六年度で七名、平成七年度五名と、たくさんの方が自殺しているということがあります。私の身近でも四年生とか大学院生とかかなり上の人が亡くなっ

ワンゲルのOBは、四年に一度アジア大会が開かれる年に小屋まつり、OB小山小屋まつりというのを開いております。先ほどご紹介したように、今五百数十名のOBがいますが、大体七十名ぐらいが日本全国から恐羅漢に集まっています。それを見ても、ワンゲルを通してつくった仲間というのが素晴らしいんだな、ということを実感しておられるんじゃないかというふうに思います。それが僕の体験の中でもワンゲルを四年間やってよかったという一番の実感です。



安藤 正昭 (あんどう・まさあき)
総合科学部教授
昭和四十八年三月 広島大学大学院理学研究科博士課程後期単位修得退学
理学博士
〔指導クラブ〕ソフトテニス部
〔専門〕脊椎動物の環境適応機構

私自身もそれほど学部時代は勉強したとは思っていませんが、山に行くときに、文庫本の例えば『資本論』だとかをどこかにしのばせて行った記憶があるんです。まったく山では読みはしませんけれど。そういう、本から切り離されたら大学生として不安だなというか、何かそういうのはわれわれの時代にはあったような気がするんです。今の学生諸君も、やはり本から切り離されたら大学生ではないんだぞというようにところがあつてほしいという感じがします。

それから今先生がおっしゃったように、自殺の問題。結局学生が孤立化しているんだらうと思うんです。そのためにこのサークルというのを大学全体でもっとうまく取り組んで、学生諸君に方向づけをしてやれたらな、というふうなことは感じます。

学生たちが見せるいきいきとした顔

渡部 私の学生時代は、今のようないやかなサークル活動というものはない時代でした。合唱団というサークルもあつたのかなかったのか知りません。ですからサークル活動について、自分の学生時代の経験に照らしてどう思うというふうなお話はできないんです

が、むしろ今、年にたった一回ですが定期演奏会という合唱団の一年の総決算の演奏会を聞かせていただいたりその打ち上げに参加させていただいて、団員の皆さんと話をして、サークル活動を楽しませていただいているというふうな面はあるんです。

安藤 最終的には自分だと思わなくて、定期演奏会には非常に古い先輩たちも現れますけれども、卒業後もそういうサークル活動、学生時代のサークル活動を通じて得た人間関係というのはみんな大事にしているようで、うれしく思っているんです。

岡本 話は尽きないと思うんですが、何か言い残したこともかもうちよつと強調したいというところはありますか。